

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について

彦根市教育委員会
令和元年9月

平成31年4月18日（木）に、全国学力・学習状況調査が実施されました。
今回の調査を分析して、この調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果をお知らせします。

なお、本年度より、教科に関する調査は、知識・技能と活用する力を一体的に問うものになりました。

調査の目的・内容

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

(3) 調査内容

①児童生徒に対する調査

ア：教科に関する調査（国語 算数・数学 英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおり。

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

イ：質問紙調査

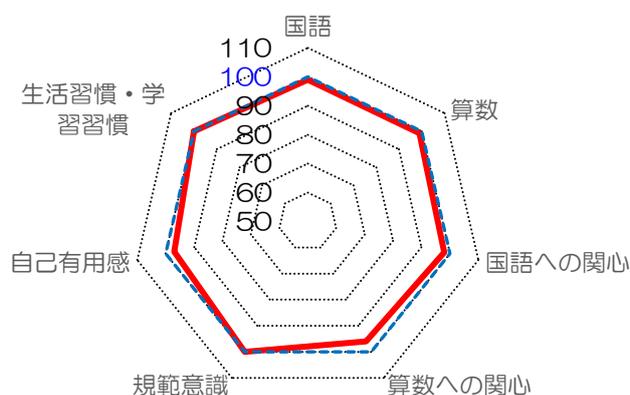
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

②学校質問紙調査

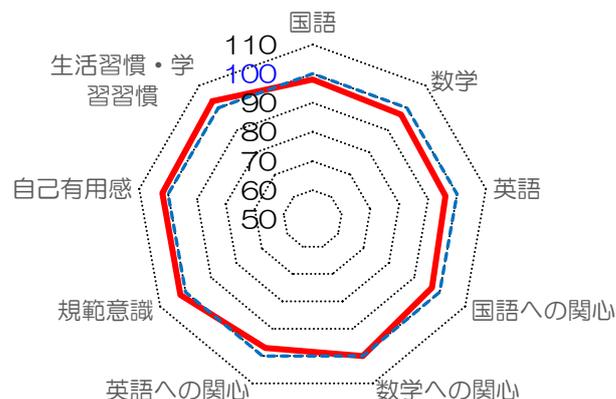
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等

調査結果の概要

小学校



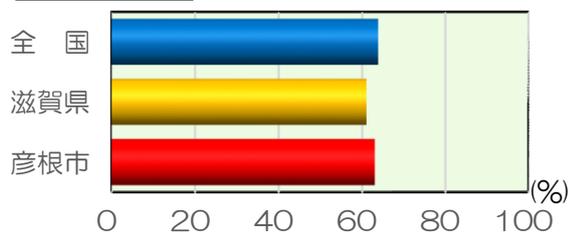
中学校



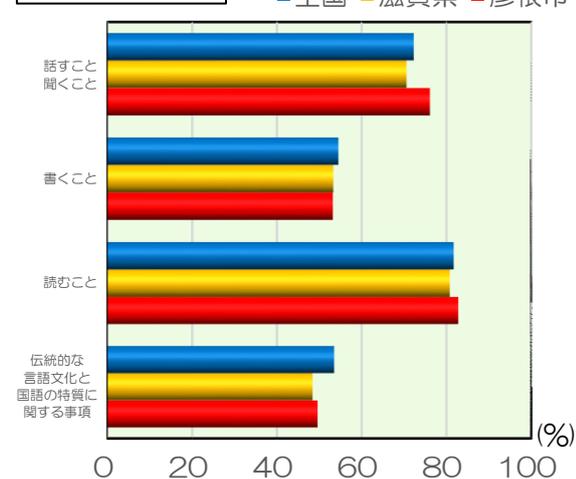
*全国の値を100としたときの市の値を表しています。■全国 ■彦根市

小学校（全14問）

平均正答率

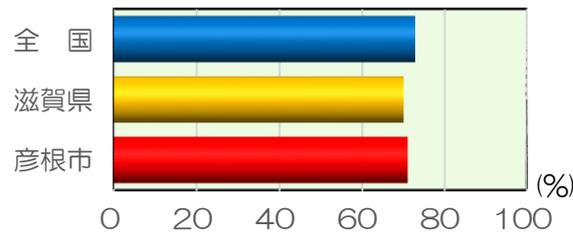


領域別正答率

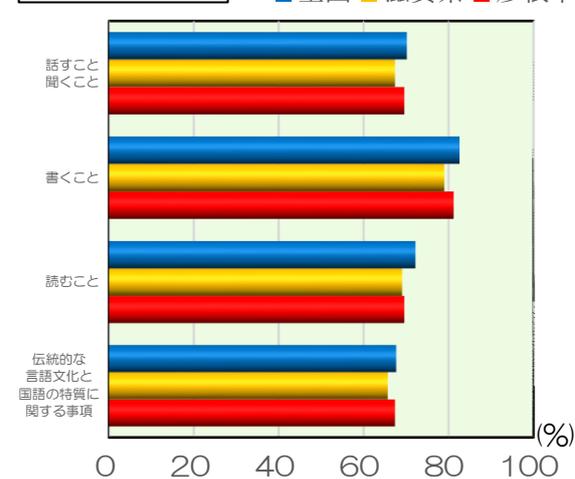


中学校（全10問）

平均正答率



領域別正答率



この調査から分かること

（結果の概要）

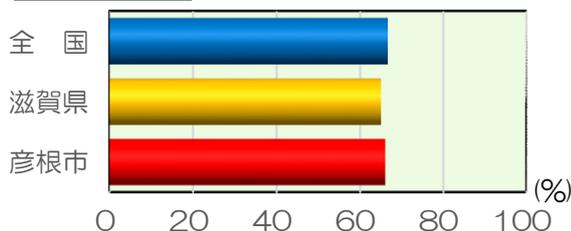
- 平均正答率は、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域において全国平均を上回り、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均を下回りました。中学校では、全ての領域で全国平均を下回りました。
- 小学校では、相手の意図を捉えながら聞き、質問を工夫したり自分の考えをまとめたりすることができましたが、文脈にふさわしい漢字を正しく書くことに課題がみられました。中学校では、記述式問題の無解答率が高い傾向にありました。また小中ともに、文章の構成や目的をとらえることに課題がみられました。

（求められる力）

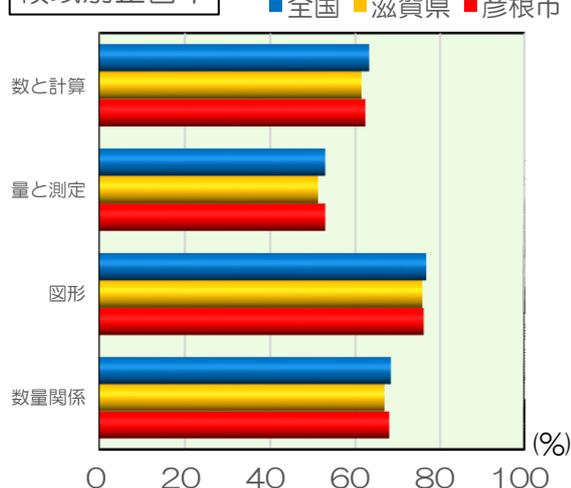
- 学年別配当表に示されている漢字については、意味を理解し正しく読んだり書いたりすることに加えて、生活の中で使える言葉として身につけることが求められます。
- 目的や意図に応じて、理由や根拠を示しながら自分の伝えたいことを明確にして書くこと、情報を整理しながら文章を読み自分の考えをもつことが求められます。

小学校（全14問）

平均正答率

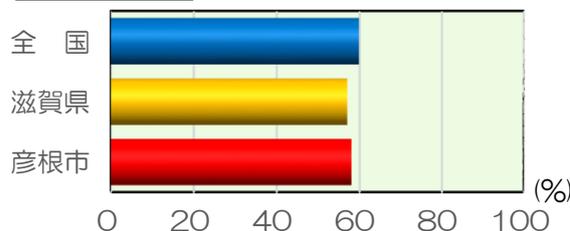


領域別正答率

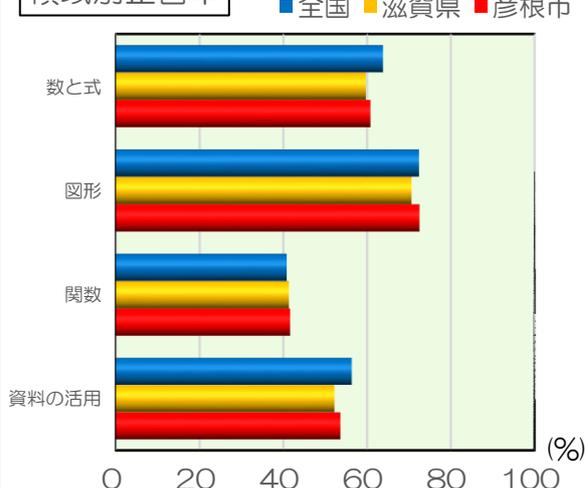


中学校（全16問）

平均正答率



領域別正答率



この調査から分かること

（結果の概要）

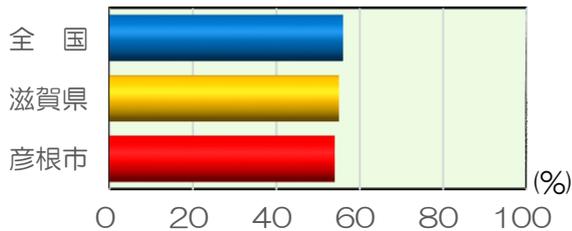
- 平均正答率は、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
- 領域別平均正答率を見ると、小学校では、「量と測定」の領域では全国平均と同程度で、「数と計算」「図形」「数量関係」の3つの領域で、全国平均を下回りました。中学校では、「図形」「関数」の領域において全国平均を上回り、「数と式」「資料の活用」の領域では全国平均を下回りました。
- 小学校では、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができましたが、除法の式の意味の理解や計算しやすい式にして計算することに課題が見られました。中学校では、平行移動や確率について理解できていましたが、連立二元一次方程式を解くこと、資料の傾向を読み取り判断することに課題が見られました。小中ともに、記述式問題の無解答率が高い傾向がみられました。

（求められる力）

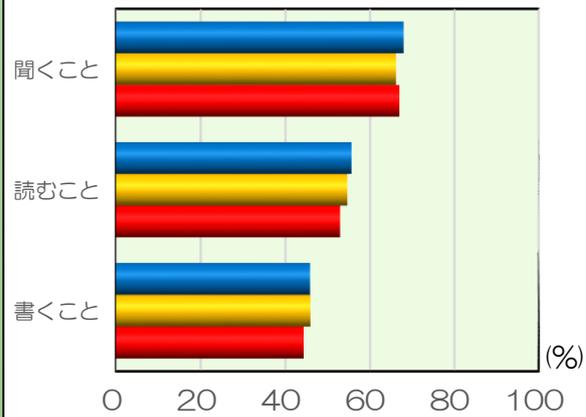
- 計算をする際には、正確に正答を導く基本的な技能の習得に加えて、数量の關係に着目して成り立つ性質を見だし、計算を能率的にするために工夫するなど、生活や学習に活用する力が求められます。
- 資料やグラフを読み取って判断したり数に関する性質を考察したりする場面では、事象に即してとらえたり解釈したりして、数学的に説明する力が求められます。

中学校（全21問）

平均正答率



領域別正答率



*「話すこと」に関する問題の結果については、「参考値」としての公表となっており、都道府県別、市町別の公表は行われていません。

この調査から分かること

（結果の概要）

- 平均正答率は、全国を下回りました。
- 領域別正答率を見ると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の全領域で、全国平均を下回りました。
- 英語を聞いて情報を正確に聞き取ることや、まとまりのある英語を聞いて必要な情報を理解することはできましたが、英語の基本的な語や文法事項等を理解して正しい文を書くことや、まとまりのある文章を読んで内容を正確に読み取ったり話のあらすじを理解することに課題が見られました。

（求められる力）

- 実際のコミュニケーションに活用できる音声や語彙、表現、文法など、言語活動を行う基盤となる知識や技能を身に付けることが求められます。
- 聞いて把握したことに適切に応じたり、書かれた内容に対して自分の考えを示したりするなど、コミュニケーションの中で、目的や場面・状況などに応じて情報や考えなどを理解したり、それらを整理・統合して英語で表現したりする力が求められます。

質問紙調査の全体的な傾向

彦根市では、子どもたちの健やかな成長と、学ぶ力の育成をめざして、「ひこねっこ 学びの6か条」を推進しています。

学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の回答状況を6か条の視点で分析し、彦根市の子どもたちの学びの様子を、見つめてみましょう。

彦根教育 学びの提言

ひこねっこ 学びの6か条

い

いっぱい本を読もう
本は心の栄養・知識の宝庫

い

いい汗かいて役立つ
家族のために、地域のために

な

なぜだろう、やってみよう
好奇心は学ぶ意欲のみなもと

お

おはよう、ありがとう
あいさつで人と人とのつながりを

す

スポーツや外遊びをしよう
元気な体づくり、心づくり

け

けじめある生活をしよう
早ね 早おき 朝ごはん



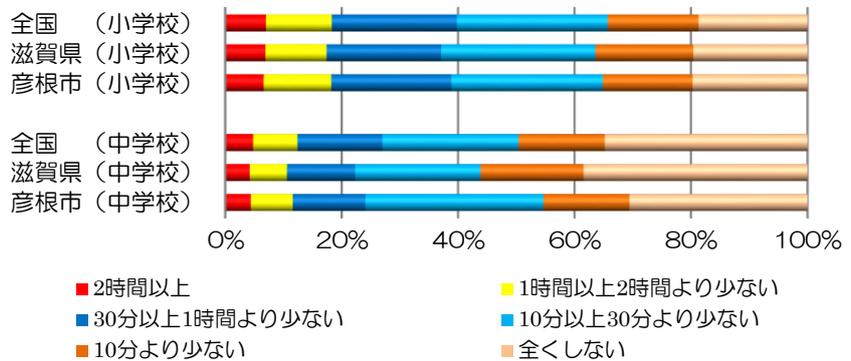
いっぱい本を読もう ～本は心の栄養・知識の宝庫～

「読書を全くしない」と回答した子どもは小学校で20%程度、中学校で30%程度、「新聞をほとんどまたは全く読まない」と回答した子どもは小学校で60%程度、中学校で70%程度でした。

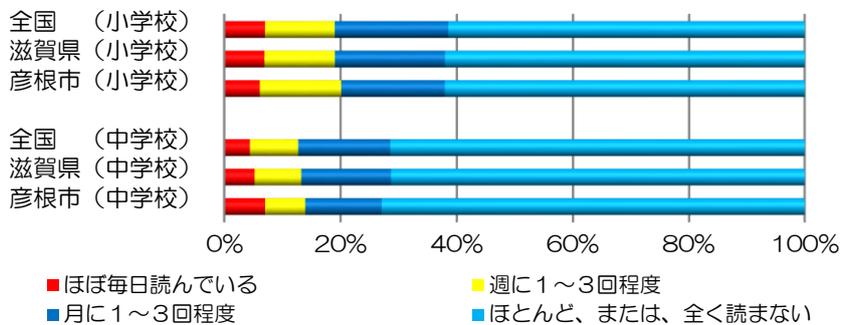
本や新聞などを読むことには、新たな知識や考え方に触れたり想像力を高めたりするなどの効果があります。様々な言葉や表現に触れることで、自分の語彙力・表現力を高めることにもつながります。



授業の時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

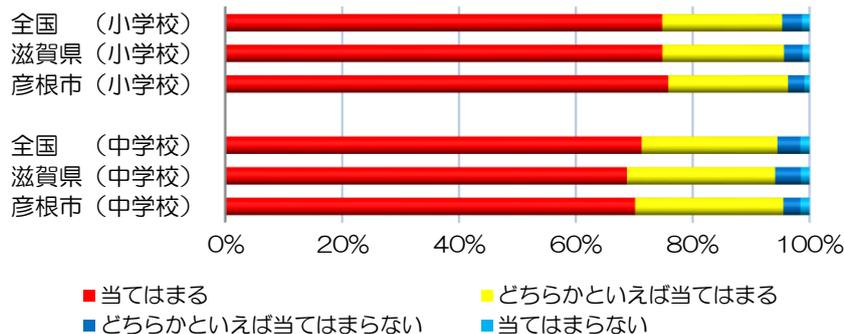


新聞を読んでいますか

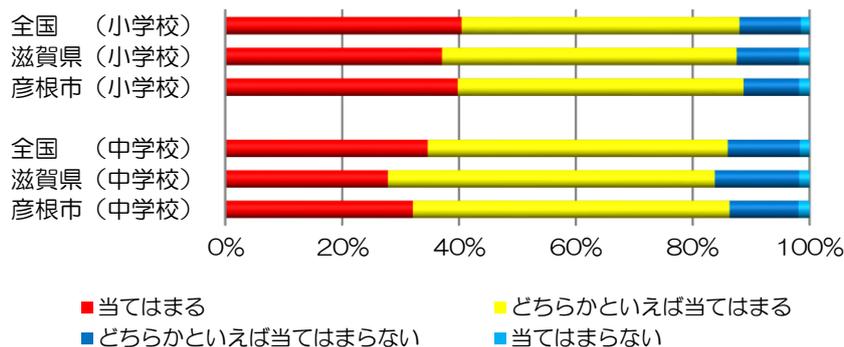


いい汗かいて役立とう ～家族のために 地域のために～

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



人が困っているときは、進んで助けていますか



「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに、小中学校ともに95%以上の子どもが肯定的に回答しました。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに、小中学校ともに85%以上の子どもが肯定的に回答しました。

ともに肯定的な回答が全国を上回っていますが、温かい気持ちをもちながらも行動するには至っていない子どももいることが分かりました。

人を思いやる温かい気持ちを行動に移せるよう子ども達を励ますことが大切です。

なぜだろう、やってみよう ～好奇心は学ぶ意欲のみなもと～

小中ともに 75%以上の子どもが話し合う活動を肯定的にとらえており全国を上回りました。

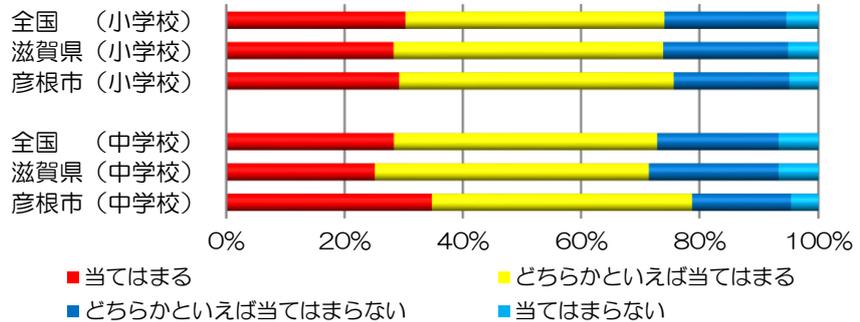
学校では、日々の授業の中で話し合う活動を取り入れ、子ども達が考えを伝え合うことにより、学びを広げ深めることをめざしています。

自分の考えをもつとともに、考えを見直しよりよいものに修正していく過程を大切にしたいと考えます。

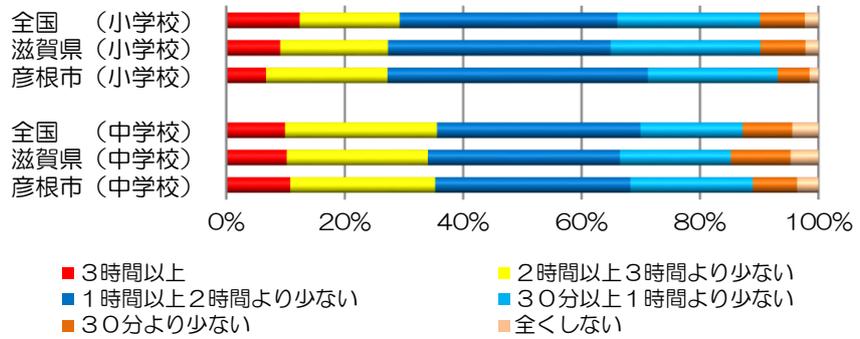
家庭学習は、学校での学習を生かしながら、自分で計画を立てて取り組めるようにすることが大切です。



学級の友達との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

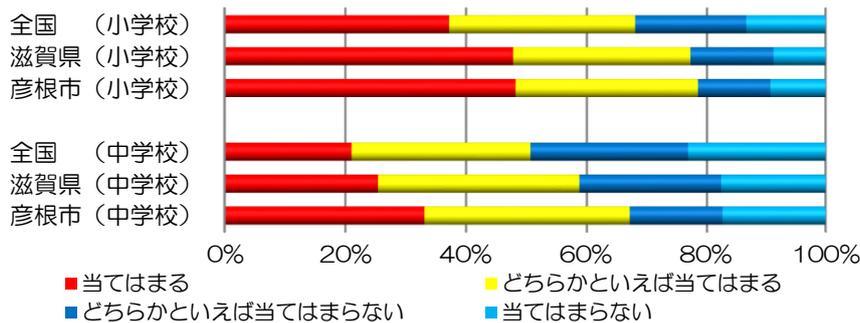


授業の時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

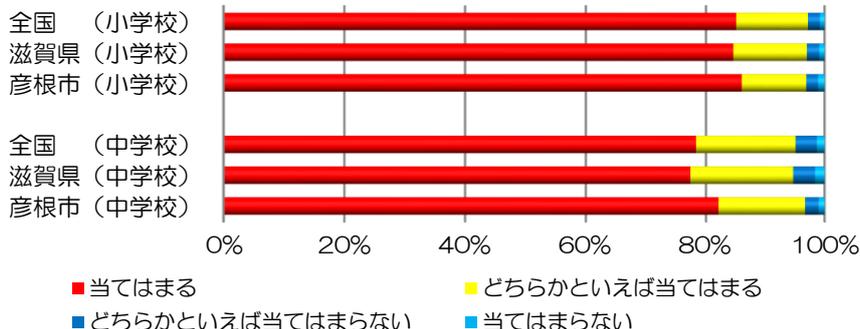


おはよう、ありがとう ～あいさつで人と人とのつながりを～

今住んでいる地域の行事に参加していますか



いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか



地域の行事への参加については、本年度も全国を大きく上回りました。また、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」という問いについても 95%以上の子どもが肯定的に回答しました。

地域のつながりを生かし、子ども達が地域のよさやお互いのよさを折にふれて確かめ合いながら心身ともに健やかに成長できるよう、今後も、学校、家庭、地域の連携充実を図っていきたいと考えます。



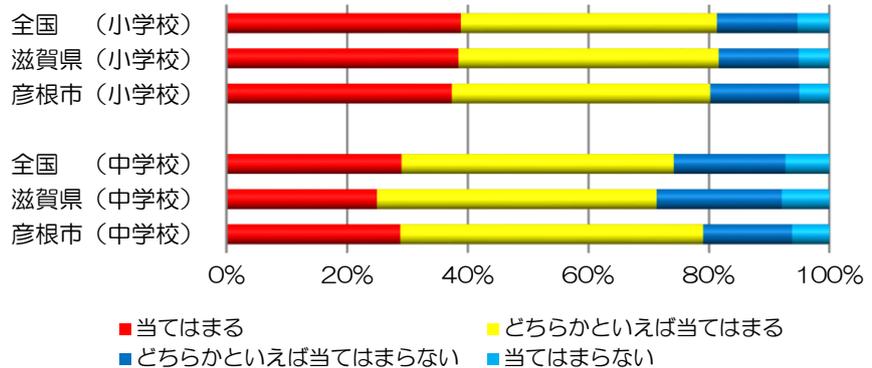
す ポーツや外遊びをしよう ~元気な体づくり、心づくり~

「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに、小中学校ともに約80%の子どもが肯定的に回答しました。また、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という問いに、小中学校ともに約95%の子どもが肯定的に回答しました。

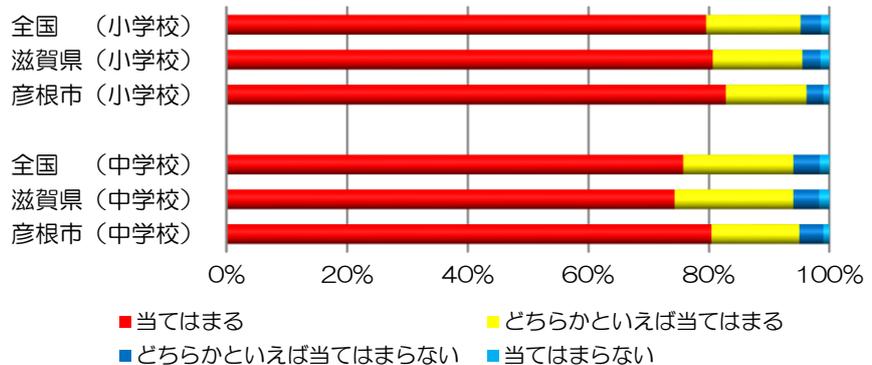
自己を肯定的にとらえたり達成感を感じたりする経験は、これからの人生の中で、大切なことだと考えます。

大きく変化していく社会の中で生き抜けるよう、これからも、学校、家庭、地域において、子どものよさを認め励まし、自己肯定感や成功体験をもつよう育むことが大切です。

自分には、よいところがあると思いますか

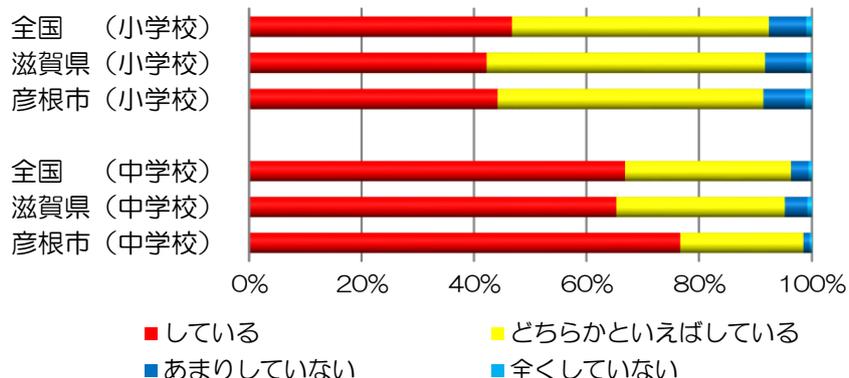


ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



け じめのある生活をしよう ~早ね 早起き 朝ごはん~

学校の規則を守っていますか



グラフは示しませんでしたが、「早ね・早起き・朝ごはん」の3つの生活習慣について、おおむね良い習慣が身につけていることがわかりました。

また、「学校の規則を守っていますか」という問いに対する肯定的な回答は、小学校で全国並み、中学校では全国を上回りました。

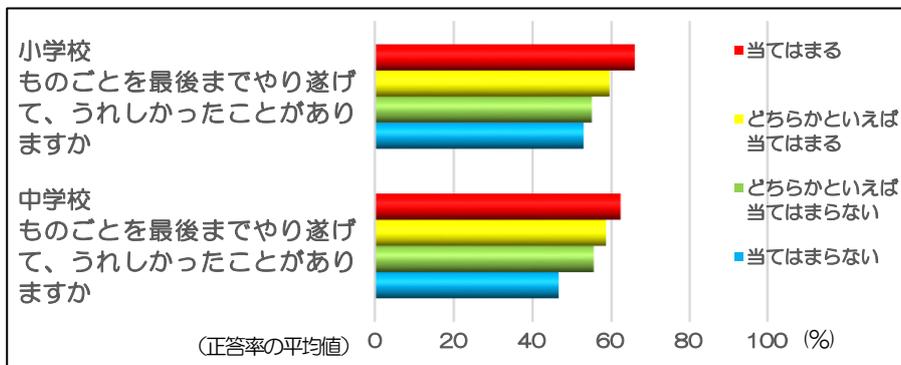
集団や社会の中できまりやルールを守ることは、お互いに気持ちよく生活するとともに学習環境を整える基礎となります。これからもけじめのある生活を心がけましょう。



教科に関する調査と質問紙調査とのクロス集計から

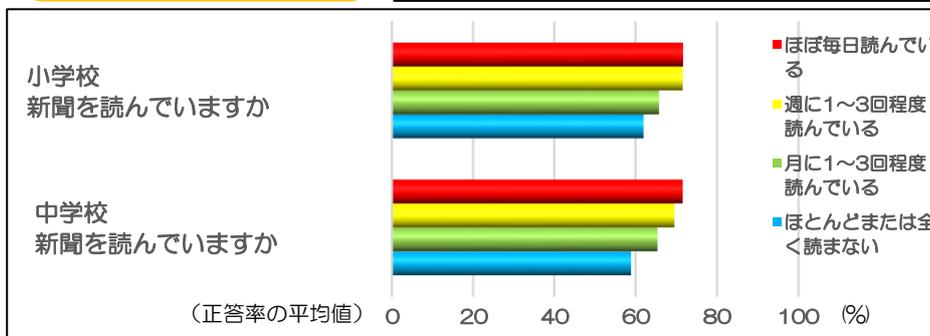
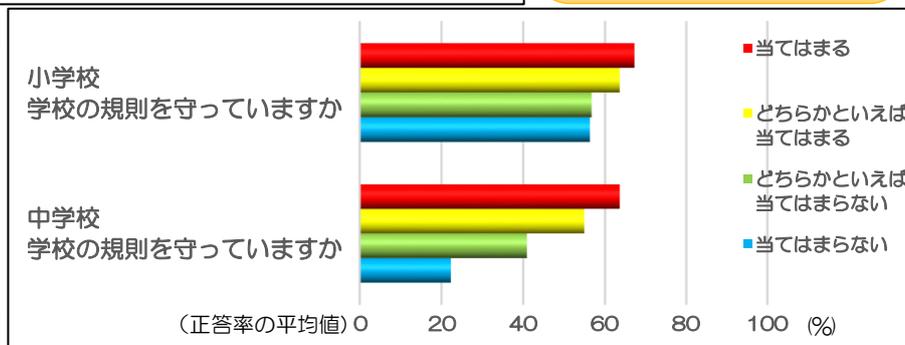
教科に関する調査と質問紙調査の関連性から、以下の傾向が見えてきました。

※グラフは、各質問項目において、それぞれの選択肢における「国語・算数（数学）・英語（中学校のみ）」の正答率の平均値をあらわしたものです。



「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。子ども達が自己肯定感を高められるよう、がんばりを励まし見届けることを大切にしたいものです。

「学校の規則を守っていますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。「自分で判断する」「行動に移す」など、規範意識を高めることは、学ぶ力の向上につながります。



「新聞を読んでいますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高い傾向にありました。身近な出来事やニュースに関心をもったり自分なりに考えたりすることが大切です。

保護者・地域のみなさまへ

今後、市教育委員会は、これらの調査結果をもとに学校と連携して課題の改善に努めてまいります。

学校では、学んだことを活用したり考えを伝え合ったりする学習を充実させ、主体的・対話的で深い学びとなるよう授業改善に取り組んでいきます。

家庭では、漢字や計算などの基礎的な内容の定着を図ったり自分で高めたいことについて「ガッテンプリント」を活用するなどして家庭学習に取り組んだり、読書に親しんだりできるよう、子ども達への励ましと家庭での学習環境づくりにご協力をお願いします。

学校、家庭、地域が一体となって、子ども達を見つめ、励まし、支えることにより、子ども達の学びを豊かにし、心身ともに健やかな成長につなげていきたいと考えます。今後も一層のご協力をよろしくお願い致します。



彦根市HP「家庭学習の充実に向けて」を、家庭学習にご活用ください。

★彦根マイ☆（スター）賞の5年間の受賞作品を紹介しています。

★「ガッテン!!プリント」をダウンロードできます。（各校のHPからリンクしています。）